

2013年3月期 決算概要（連結）

1. 業績の概況

当連結会計年度（自 2012年4月1日 至 2013年3月31日）（単位：億円）

	2012年度 (第8期) A	2011年度 (第7期) B	増減		2013年度 (第9期) 計画※3
			金額 A-B	% A/B*100	
営業収益	16,810	5,963	10,847	281.9	7,914
高速道路事業	16,261	5,445	10,815	298.6	7,347
(料金収入)	4,973	4,767	205	104.3	4,806
(道路資産完成高等)	11,287	※2 678	10,609	1664.2	2,541
関連事業	549	517	31	106.1	567
(休憩所事業)	420	361	58	116.2	436
(その他)	129	156	▲26	82.8	131
営業費用	16,746	5,874	10,871	285.1	7,880
高速道路事業	16,260	5,417	10,843	300.2	7,378
(道路資産賃借料)	3,502	3,414	88	102.6	3,336
(道路資産完成原価)	11,279	590	10,689	1911.0	※4 2,581
(管理費用等)	1,479	1,413	66	104.7	1,461
関連事業	485	457	28	106.1	501
(休憩所事業)	354	293	60	120.5	368
(その他)	131	164	▲32	80.3	134
営業利益	63	88	▲24	72.4	35
高速道路事業	0	28	▲27	1.0	▲31
関連事業	63	59	3	106.2	66
経常利益	80	100	▲20	80.1	26
当期純利益	43	68	▲25	63.5	16

※1 実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※2 2011年度の道路資産完成高等には、無料化社会実験に伴う国からの負担金（40億円）を含みます。

※3 2013年度計画は、2013年3月29日付けで国土交通大臣から認可された「平成25事業年度 事業計画」を前提としております。実際の業績は、さまざまな要素により、上記計画数値と異なる可能性があることをご承知おきください。

※4 2013年度計画の高速道路事業の道路資産完成原価には、高速道路に係る利益剰余金を活用して実施する事業（40億円）が含まれています。

(注) 事業内容の種類、性質等の類似性、損益集計区分及び関連資産に照らし、以下のように事業区分を行っております。

事業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他（関連）事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、カードサービス事業等

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

ネットワークの整備

新東名高速道路（御殿場 JCT～三ヶ日 JCT 162km）	2012年4月14日開通
東海環状自動車道（大垣西～養老 JCT 6km）	2012年9月15日開通
紀勢自動車道（紀伊長島～紀勢大内山 10km）	2013年3月24日開通
首都圏中央連絡自動車道（海老名～相模原愛川 10km）	2013年3月30日開通

(通期業績)

- ・ 営業収益は、昨年対比で1兆815億円増加し、1兆6,261億円となりました。
これは、料金収入が新東名高速道路の開通に伴う交通量の増加や料金割引の見直しにより昨年対比で205億円増加したこと、また、新東名高速道路などの開通により道路資産完成高を計上したことにより、昨年対比で1兆609億円増加したことによるものです。
- ・ 営業費用は、昨年対比1兆843億円増加し、結果、営業費用は1兆6,260億円となりました。
これは、料金収入の増加により、道路資産賃借料が昨年対比で88億円増加の3,502億円計上したこと、新東名高速道路などの開通により道路資産完成原価を1兆1,279億円計上したこと、管理費用等が66億円増加したことによるものです。なお、管理費用等には、中央自動車道笹子トンネル上り線における天井板落下事故に伴う復旧作業等に要した費用が含まれています。
- ・ 上記により、高速道路事業営業利益は、昨年対比で27億円減の0.2億円となりました。

(2) 関連事業

(実施した施策)

2012年4月14日の新東名高速道路の開通にあわせて13カ所の商業施設がオープンしました。出店した121の店舗の半数以上にあたる67店舗は高速道路初出店で、これまでの高速道路にはなかった新鮮で魅力的なサービスを提供しております。

特に、駿河湾沼津サービスエリア、清水パーキングエリア、静岡サービスエリア、浜松サービスエリアの7カ所（上下線別）については、新たな時代を象徴するブランドとして「NEOPASA(ネオパーサ)」を立ち上げ、開業後1年間で延べ3,700万人のお客さまにご来店いただきました。

(通期業績)

- ・ 営業収益は、昨年対比で31億円増加し、549億円となりました。
これは、休憩所事業での新規休憩施設「NEOPASA(ネオパーサ)」などオープンによるものです。
- ・ 営業利益は、新規休憩施設の開業などに伴う営業収益及び営業費用の増加がありましたので、昨年対比で3億円増の63億円となりました。

以上